

キングモンクット工科大学短期語学研修体験記

文学部比較文化学科 1 年（参加時）

私は 1 年生の年度末の 2 月 25 日から 3 月 10 日にかけて 2 週間、タイのキングモンクット工科大学（KMUTT）に留学しました。一年後期の 11 月に申し込みをし、トータルの費用は約 25 万円程でした。ここからは留学について知りたい人向けに、体験記や情報をまとめていきたいと思います。

タイ留学のメリット

- ・英語ネイティブではないこと

→タイの母国語はタイ語であり生徒が英語学習の難しさを理解してくれていたため、私の拙い英語も理解しようと一生懸命耳を傾けてくれました。また、タイ語には省略がなく、話すときも「I am」を「I'm」にしたりしないので聞き取りやすかったです。

- ・親日国であること

→どのお店に行っても外国人だからと嫌な対応をされることはなく、むしろ日本人と伝ええると嬉しそうにもらえることもありました。学生の中には日本語を話せる子もいて、英語に自信がなくても積極的にコミュニケーションをとりやすかったです。

- ・安いこと

→タイ留学のメリットとして大きいのが、価格を抑えられることです。タイは物価が安いのもあり、他の短期語学研修プログラムに対してかなり安く抑えることができます。また、滞在中にかかる食費やお土産代などの諸費用も安く済ませることができました。

タイ留学のデメリット

- ・英語が母国語ではないこと

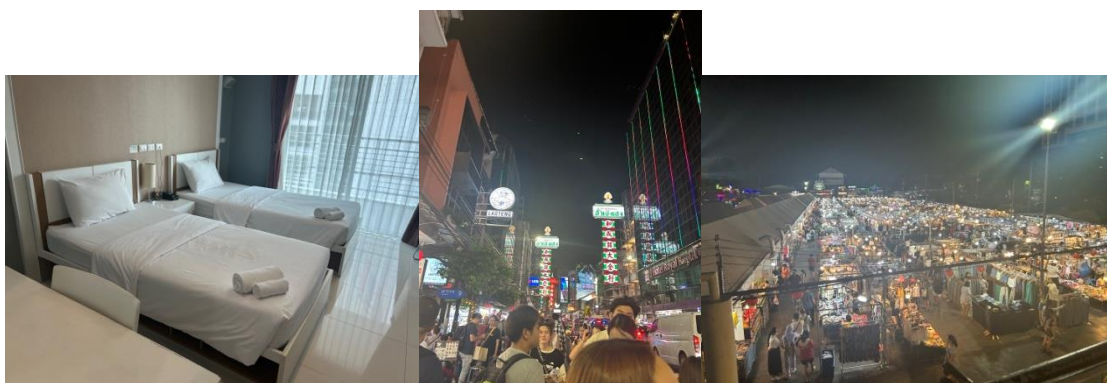
→メリットのところでも書きましたが、タイの母国語は英語ではないため、英語の発音などに細かくこだわりたい人には向いていないと思います。ただ、みんなよく英語を勉強しておりかなり流暢な英語を話すので、私は全然気になりませんでした。

- ・潔癖や、細かいところが気になってしまう人には多分合わないこと

→タイはシェア食文化で、さらに屋台でご飯を食べることも多いので、虫が飛んでいる中で食事することも多かったです。また、タイバディとの夕食の予定も当日のギリギリに決まることが多かったのできっちり計画を立てたいタイプには正直きついと思います。

向いている人物像

私の感じた、向いていると思ったタイプは、海外初心者や、細かいことを気にせず行ける人です。後で詳しく述べますが、KMUTT のプログラムは、英語を学ぶ授業に加えてタイ文化を学んだり観光したりできる機会が多く設けられており、初めてのタイでも大満喫できると思います。生徒も先生も優しくしてくれるので、英語に自信がなくても積極的に挑戦しやすいと思います。また、北九大担当のバディが複数人ついてくれるので、毎晩のようにナイトマーケットなど色々なところに連れて行ってくれ、タイについて何も知らなくても十分楽しめると思います。



タイ生活のリアル

・治安

→留学前は治安が悪いと聞いてきましたが、特に何も盗まれることなく無事に 2 週間過ごすことができました。車の運転の荒さや、横断歩道で信号が青になっても渡れないなどはありましたが、そこまで生活に支障があるレベルではなかったです。

(私たちの運が良かっただけかも知れませんが)

・食文化

→タイ料理は辛いもの、酸っぱいものが多く、日本ではなかなか食べない味のものが多く始めは合わないと感じていましたが、3日目くらいから慣れて美味しく食べられるようになりました。(個人差はあると思います。)

また、バーガーキングや KFC, マックなどのチェーン店や日本料理店が多くある上、タイ料理でも日本食に似た味のものがたくさんあるので、自分でストレスを感じないように調節することはできると思います。また、水は大学とホテルから一日 500ml 3 本程度提供されたので自分で買わなくても十分な量でした。

・物価

→全体的に物価は安く、学食なら 1 食 60 バーツ (日本円で約 240 円)、外食しても 500 円程度で食べられます。お土産は Big C という地元のスーパーで安く大量にゲットでき、500 バーツ (2000 円程度) もあればバイト先にも十分配れる、相当な量を買うことができます。留学時に日本円からバーツに換金する場合、全部で 3 万 5 0 0

0円程度あれば2週間過ごせると思います。ただ、クレジットカードが使えるところは少ないです。買い物の際 1000 バーツ札などの大きいお金は払いにくいと感じるかも知れませんが、ほとんどの店は丁寧に対応してくれるので大丈夫です。

- ・日用品

→KMUTT 構内や近所に大量のセブンイレブンがあったり、徒歩 30 分で行けるとところにマックスバリューがあったりするので、薬以外の日本製品は基本何でも買えます。シャンプーや生理用品など生活用品のほとんどは日本メーカーのものを揃えられるので最悪日本から持ってきて忘れても現地調達できます。

- ・体調不良

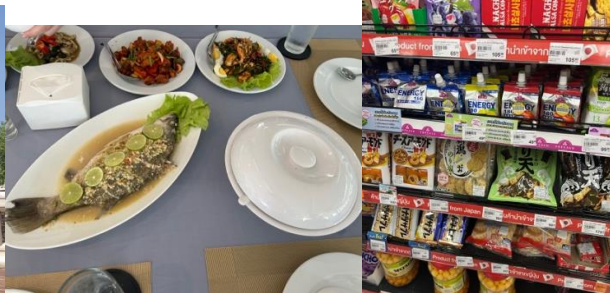
→私は大丈夫でしたが、連日 30° 以上の猛暑や疲労で体調を崩す人はかなり多かったです（15 人中 8 人）。体調不良時のゼリーやお粥などの食料も現地で簡単にゲットでき、ホテルの部屋も清潔なので何とか耐えられると思います。

- ・学外で英語は通用するか

→大体何とかできます。バスなどタイ語しか通じないところもありましたが、翻訳アプリを駆使して伝えようとするので基本的に応えてくれます。

- ・あったほうがいいもの

→洗濯ネットは同部屋の子と一緒に洗濯する上でマストです（私は現地のマックスバリューで買いました）。塩分チャージタブレットも、粉のポカリよりも汎用性が高いのでおすすめです。



私の英語力とリアルな所感

参考までに、私は留学前ほとんど英語を勉強しておらず（何なら必修英語落単しました）、英語は全くと言っていいほど話せませんでした。ちなみに TOEIC スコアは 540 でした。周りの参加者のほとんどは英米学科で、自分からしたらみんなスラスラだったし、初日 2 日目は英語がほとんど聞き取れずずっと黙っていましたが、幸いタイの皆さんは本当に優しく、先生含め皆さんが丁寧に私の言っていることを理解しようとじっくり聞いてくれたので、何とか授業に食らいつくことができました。授業は北九大の学生と現地の先生のみで行い、準備時間 5 分ほどの即興プレゼンが多かったです。即興プレゼンは日本ではなかなかやる経験がなかったのでためになりました。ただ私のように「何とかなるだろう」という考えだけできてしまうと少しきついと思います。私は「何とかなる ではなく、何とかする」という強

い意識を持って、全然英語が分からなくてもたくさんの生徒や先生に積極的に話しかけていたので、恥をかきに行くくらいのマインドで臨んだほうがいいと思います。

タイの学生と話すときは、正直に「Sorry, I cannot speak English well.」と伝え、「Don't worry!」と言ってゆっくり話してくれたり、翻訳アプリを駆使してコミュニケーションを取ろうとしてくれたりするので、物怖じせずにとたくさん話すことができました。「誠意と愛想の良さ」を持って接すればきっと応えてくれると思います。

留学を通して得たものとまとめ

私は今回の留学を通して、「海外でも生きていけるという自信」と「言語の壁を超えてコミュニケーションをとることのできる嬉しさ」を感じることができました。留学前は文化の違いや英語力の自信のなさで不安だらけでしたが、いざ行ってみると文化の違いもそこまで感じることなく、それなりにコミュニケーションをとって仲良くなれることに気づきました。この経験は日本ではなかなか得られないので本当に行って良かったなと思います。

今回できたタイの友達や授業を教えてくださった KMUTT の先生に再会するために今年の夏にもタイを訪れることに決めたので、それまでに英語力をアップさせて成長した姿を見せられるように学習に励みたいと思います。

